

日本・トルコ4人の気鋭ミュージシャンと美加理（元ク・ナウカ）
トルコ、エジプト、ハンガリー巡演を経て日本完結公演



日本とトルコの
異彩のミュージシャンによる
劇烈なる音の交換。そして
音とムーブメントの静かなる交換
トルコ、エジプト、ハンガリーを巡り、
日本完結公演

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）の企画・制作により、昨年秋、4人の気鋭のミュージシャンと美加理（元ク・ナウカ）が、強烈な個性と個性をぶつけ合いながら共同創作し、トルコ、エジプト、ハンガリー巡演を巡回してきたステージが、いよいよ日本公演の運びとなりました。

調和と異質こそが新しい音楽を生み出す力である—それがこの共同創作のテーマです。地の底から湧き立つような声と強烈な個性を放つカザフ系トルコ人の即興ボーカリスト、サーデト・テュルキョズ。パンクロックから演劇までを縦断する異才のボーカリスト、国広和毅。2人が全体をダイナミックに突き動かし、トルコ人ギタリスト、シェヴケト・アケンジュのミニマルで緻密な即興と、コントラバスの河崎純の身体から抉り出すような魂の即興が空間を創出し、美加理がすっと屹立する身体をもってその空間に生命を吹き込む—このコンサートは、共同作業の過程で生まれた調和の中に、5人の異質性を意図的に残した、激烈な音の交換と移動の軌跡です。

日時 | 2月12日(土) 午後7時30分 | スパイラルホール(青山・スパイラル3F)

2月14日(月) 午後7時30分 | 神奈川県民ホール・小ホール

料金 | 前売り 2,500円 当日 3,000円 全席自由

チケット取扱い | 国際舞台芸術交流センター <http://www.parc-jc.org>

SPIRAL WEB (2/12 スパイラル公演分のみ取扱)

<http://store.spiral.co.jp/product/ItemDetail.do?itemId=5743>

チケットかながわ (2/14 神奈川県民ホール分のみ取扱)

http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/kaf_tc_top.html

マスコミ関係お問い合わせ | 国際交流基金舞台芸術チーム 電話：03-5369-6063

国際舞台芸術交流センター 電話：03-5724-4660

出演者プロフィール

国広和毅 Kazuki Kunihiro

作曲家、ボーカリスト、ギタリスト。ジャンルを超えた豊かな音楽性と存在感ある舞台姿で異彩を放つ。2つのバンドを率い、ミクスチャーバンド〈ダタ〉では、イメージの飛翔する自らの詩を歌い上げ、パンクバンド〈Aujourd'hui il fait beau〉では、自作のオブジェを使って演奏する異才のミュージシャン・今井次郎、本公演のメンバーであるコントラバス・河崎純とのトリオで、自由かつ過激な世界を展開する。

一方、演劇、ダンスなど舞台作品の作曲と演奏で活躍。パフォーマンス集団「時々自動」の一連の作品のほか、話題作に、イラン・インド・ウズベキスタン・日本共同制作「演じる女たち—ギリシャ悲劇からの断章」(2007年、国際交流基金)、串田和美演出のクークン歌舞伎「佐倉義民傳」(2010)、田中麻衣子構成・演出「罪と罰」(2010年、まつもと市民芸術館)など。海外公演にロシア、リトアニア、ウズベキスタン、グルジアなど。

サーデト・テュルクヨズ Saadet Türköz ※公式 HP(演奏試聴可)=<http://www.saadet.ch/index-flash.html>

即興ボーカリスト。地の底から湧き立つようなストロングな声と、中央アジアの語り物の伝統とフリージャズの融合した独特のスタイルで、圧倒的な存在感を示す。

東トルキスタン(ウイグル自治区)から政治難民としてイスタンブールに辿り着いたカザフ系の両親の下に生まれ、幼い頃に同地のカザフ・コミュニティーの長老たちから学んだ中央アジアの語り物と、日常聞こえてくるコーランの響きと自由な節回しが、後のスタイルの原点となる。20歳でスイスのチューリッヒに移り住み、フリージャズや即興音楽に出会い、それが自身の音楽的ルーツに塗り重なって、今の独特のスタイルに至る。現在、チューリッヒを拠点に、世界各地の即興ミュージシャンと刺激的なコラボを展開する。代表的な共演者に、Elliot Sharp (ギター/サクソ、米国)、Fred Frith (マルチ/米国)、Nils Wogram (トロンボーン/独)、Koch-Schuetz-Studer Trio (スイス)など。日本の音楽家では、琴の八木美知依、ボイス・パフォーマンスの巻上公一など。

河崎純 Jun Kawasaki ※詳細プロフィール=http://www.realarts.org/profile_KAWASAKI.html

コントラバス奏者、作曲家。コントラバスを齋藤徹、吉澤元治に師事。体全体から搾り出す魂の即興で、独自の世界観を産み出す。マンスリーソロライブ「震える石」を続けるほか、国広和毅率いる〈ダタ〉と〈Aujourd'hui il fait beau〉、即興音楽集団〈Exias-J〉などでも活躍。演劇、ダンスとのコラボレーションも多い。特に言葉に強い関心を抱き、詩人の原牧生とセミナー・シリーズ「詩の通路」、即興と作曲、言葉と音の構成を考えるワークショップ「いまからここで」などを主宰している。ポーランド、米国、スコットランド、ロシア、フランス、スイス、ウクライナ、リトアニアなど海外公演多数。

シェヴケト・アクンジュ Şevket Akıncı ※公式HP(演奏試聴可)=<http://www.myspace.com/sevketakinci>

即興ギタリスト、作曲家。米国のパークリー音楽院を卒業した後、自身のアルバム制作ほか、ジャズ、前衛音楽、パンク、トルコ伝統音楽など、様々なプロジェクトに参加。2005年以来、ソロ活動とともに、イスタンブール拠点の即興グループ〈Islak Köpek (濡れ犬)〉にも参加。繊細かつミニマルなスタイルでトルコの即興音楽シーンをリードし、また、Lê Quan Ninh (パーカッション/フランス)、Eugene Chadbourne (ギター・バンジョー/米国)、Sussan Deyhim (ボーカル/イラン・米国)、Luc Ex (ギター/オランダ)など、内外の多くの即興音楽家たちとの共演を活発に展開。

美加理 Micari

故・寺山修司作・演出の「青ひげ公の城」で舞台デビューし、小劇場で活躍した後、演出家・宮城聰とともにク・ナウカの設立に参加。ク・ナウカは、主要な登場人物を、語る俳優と動く俳優の2人で演じるというユニークなスタイルと、場を変容させる空間の使い方で独特の美学を確立し、美加理は「メディア」、「天守物語」、「マハーバーラタ」、「オセロ」、「トリスタンとイゾルデ」など全作品で主演、海外ツアー多数。客演にSCOT「エレクトラ」、「サド公爵夫人」など。その極度に集中した演技と強い身体表現は高い評価を集める。2007年にク・ナウカが休止を決めたのに伴い、本格的にソロ活動を開始。主な作品に、音楽家・種田郷とのダンス・パフォーマンス「生のもとの火を通したもの／闇の碧」、舞踏の笠井毅との「歌行灯」、インドの劇団Roots & Wingsとの「エレファント・プロジェクト」など。